

## 第1回山形県立図書館活性化検討委員会 議事録

期 日：平成27年4月21日（火）

時 間：13:30～15:00

場 所：県庁902会議室

### 1 開 会

### 2 山形県教育委員会挨拶【菅野教育長】

### 3 委員の委嘱

### 4 委員紹介・事務局紹介

### 5 委員長選出

- ・逸見委員を選出

### 6 協 議【座長：逸見委員長】

- ・山形県立図書館活性化検討委員会設置要綱第5条第3項の規定により、コミュニティデザインが専門の東北芸術工科大学 准教授 岡崎エミ氏を当委員会のオブザーバーとして、出席を認める。

#### (1) 県立図書館の現状と課題について

板垣館長が「県立図書館の将来のあり方について—山形県立図書館協議会報告書—（平成27年3月）」（資料3）に基づき、「現状と課題」（1～6頁）について説明。今回の山形県立図書館協議会の提言は、現状の施設・設備、人員配置をもとに当面の改善策を示したもので、「さらなる活性化に向けて」（18頁）では、幅広い視点に立った検討が必要であるとまとめていることを説明した。

#### (ア) 県立図書館の位置付けについて

##### 尾形委員

私は庄内在住で県立図書館に行く機会がなかなかなかった。通常、施設に人を集めて利用者を増やすことを考えると、施設を中心として利用者が多いエリアが決まってくることが多い。物理的に、山形市内の方、施設を中心として半径2～5キロとか、自宅と職場の間の生活圏に図書館があるといった人たちの利用が圧倒的に多く、リピートしやすいと推測する。私たちはインターネットで本を買うことが多くなっているが、図書館や書店は手にとって本を見られることが最大の価値だと思う。また、広く全県の方に利用してもらうことを考えると、インターネットで本を貸し出していることが十分に知られていないためPRした方が良いのではないかと。

また、山形市の場合、県立図書館の他に山形市立図書館があり、近隣には周辺市町の図書館もある。県立図書館と市町村立図書館との棲み分けはどうなっているのか。県立

図書館の位置付け、コンセプトがはっきりとわからない。図書館の機能としては、①学習や調べ物をするための図書館、②娯楽を目的とする図書館に大きく分けられると思われるが、どちらの色合いを強くするのか。カフェを併設する案もあるが基本機能を置いては利用価値が低下する。

施設利用者の向上を図る場合、既存施設の規模は席数で決まっていると思われる。飲食店の集客と類似した点が多く、利用者数は席数と回転数で決まる。利用者の滞在時間が長くなると回転が悪くなり館内における利用者は低下する。利用者を増やしたいのか、特定の人にゆっくり来てもらい満足度を上げていきたいのか整理した方が良い。カフェを併設したり館内で飲食するようになれば滞在時間が長くなる可能性がある。運営の方向性としてその目的を明確にした上で、そもそもどんなコンセプトで、どういう人たちにどんな使い方をしてもらいたいのか、他の市町村立図書館との棲み分けをどうしていくのか考え方を教えていただきたい。

#### 回答（板垣館長）

図書館については、国が設置及び運営上の望ましい基準を定めているが、基本的に県立図書館は市町村立図書館の機能に加えて、市町村立図書館を支援する機能が求められている。先ほど機能を娯楽と学習に大きく2つに分けていただいたが、どちらかという市町村立図書館は、身近な住民を対象として娯楽の部分のウェイトが大きく、県立図書館はこれに加えて、市町村立図書館でなかなか購入できない専門書や高価な稀少本や郷土資料の収集に力を入れている点で色合いが違うと考えている。

利用者のターゲットについては、県立図書館の場合、山形市内周辺の方だけでなく、全県から利用していただくことが必要で、インターネット予約により、県立図書館の本を地域の図書館を通じて借りることができる。当然、リピーターの方も多いが、幅広く利用していただきたいと考えている。

#### (イ)利用者アンケート調査の回答者について

##### 逸見委員長

様々な地域からの利用ということに関してだが、利用者アンケート調査の回答者について、エリア別の来館者、年代別等の情報はるか。

#### 回答（板垣館長）

アンケート調査は県立図書館に対して、どのような要望があるかということで実施した。回答者数は四百数十名。

#### 回答（山田副館長）

利用者の居住地は山形市 82%、天童市 4%、上山市 1.5%でほぼ近隣の利用者となっている。年代別では 60 歳代 25%、70 歳以上 16%、40 歳代 15.7%、50 歳代 13.9%、30 歳代 13.5%、10 歳代 10.6%、20 歳代 5.5%であった。また、男女比は男性 65%、女性 35%であった。

#### 回答（板垣館長）

今申し上げたのはアンケート調査の回答者であるが、年齢別の貸出利用者は、0～6 歳 1.3%、7～12 歳 3.7%、13～15 歳 1.4%、16～18 歳 1.8%、19～59 歳 56.4%、60 歳以上 30.5%であった。

#### (ウ)利用者の年齢構成等について

## 新藤委員

利用者を年齢構成別で見ると高齢者が多く、性別は男性が多い。サービスを考えると、昨今、高齢者向けのサービスが問題となっていて、全国的にも取り組みが遅れていると指摘がされている。子供向けのサービスはもちろん重要だが、高齢者向けのサービスも考えなければならないのではないかと。県立図書館では大活字本のコーナーを設置したところで、次の段階としては、高齢者や退職者向けのイベントや講演会を開催したりすると図書館の利用の増加につながると考えられる。

利用者は女性の比率が少ない。都市部では女性層を集客のターゲットとしているが、料理教室を図書館内で開催し、料理本を目立つところに集中して置いたり、幼稚園や小学生の子どもがいる母親といった子育て世代を対象とした絵本コーナーを設置したり、運動会の時期に運動に関連する本を紹介したり、講演会を開催すると人が集まる流れができるのではないかと。このような視点で検討できないか。

## (エ) 読書に関する県民性について

### 岡崎オブザーバー

利用者数が少ないとのことだが、山形市の図書館も含めて山形県全体で、県民は図書館を使う割合は高いのか。今の県立図書館が魅力的でないから使わないのか、そもそもあまり図書館を使わない県民性なのか疑問に思った。私は山形に来る前は栃木に住んでいたが、栃木県はあまり本を読まない県であった。知的なものに触れる機会が県としてどれだけあるのか。

県の施策として、知が集まる場所をどう利用していくのかを議論する必要があり、小手先の人を集めるイベントといった話で終わってしまうことが懸念される。大学も知の拠点として色々な活動をしているが、単に知識を詰め込むだけではなく、どう活用していくかがこれから求められている。図書館としてどのような支援ができるのかも含めて考える必要がある。そうすると教育の話になってきて、高齢者の娯楽の場だけではなく、これからの世代をどう育てていくのかを議論していく必要がある。そうすると若い人たちも行きたいと思う空間も必要であるし、読書の重要性を理解してもらうために、図書館は何ができるかを考えなければならない。

### 回答（山田副館長）

県民性について、入館者の傾向はわからないが、貸出冊数を紹介すると県立図書館は年間 18.7 万冊、山形市立図書館 110 万冊、酒田市立図書館 52.3 万冊、鶴岡市立図書館 46 万冊となっている。1 回当たりの貸出冊数等の制度も違うので単純に比較はできないが、県立図書館以上に貸出冊数が多くなっているところもある。

## (オ) 図書館の利用目的について

### 逸見委員長

入館者数について、高校生の学習利用も含むのか。

### 回答（板垣館長）

入館者数は、図書館入口のカウンターを通った場合にカウントされるので、学習利用の場合を含む。入館者数に関して調べているが、日頃の利用目的に関する情報は持ち合わせていない。

## 回答（山田副館長）

アンケート調査において利用目的も調査している。複数回答で合計が100%にならないが、日常生活に必要な情報・知識を得るため45%、仕事に関する情報・知識を得るため25%、資格取得等の学習のため19%、学校の授業に関する学習・学術研究のため13%、趣味・娯楽等で情報を得るため60%、新聞・雑誌等による時事情報を得るため22%、その他児童書を見るため7%であった。

## （２）県立図書館活性化に向けて

- ① 検討事項について
- ② 年間スケジュール

鈴木室長が「検討事項」（資料4）、「遊学館見取図」（資料5）、「活性化検討委員会スケジュール」（資料6）により一括して説明。今年度は検討委員会を5回開催し、県立図書館活性化のための基本計画を策定する。5月19日に県立図書館での現地視察、7月に他県の図書館を視察し、8月の第2回検討委員会では基本構想を示して、意見をいただく。そして、9月には基本構想の検討に加え、具体的な基本計画の策定に入っていきたい。これを修正していく形で進め、1～2月には基本計画を策定したい。

検討事項については、人が集う図書館を目指して、どの世代をターゲットとするかということももちろんあるが、全国の図書館を見ると様々なエリアを設けたり、目的に応じて幅広い人たちに利用していただいたりする施設づくりが進んでいる。単純に、これまで高齢者の利用が多いことから、高齢者をターゲットに活性化するというのではなくて、幅広い人たちに利用していただきたい。地元の市町村立図書館を通じた県立図書館の利用も含めて、人が集うことをキーワードとして考えている。大きく分けて、①図書館機能の充実、②人が集う仕掛けづくり、③管理運営を柱に検討していただきたい。

## （カ）県立図書館の移転について

### 逸見委員長

遊学館内の図書館としての検討となるか。

### 回答（鈴木室長）

県立図書館の新築、移転は考えていない。現在の建物の中での検討となる。

## （キ）基本計画策定等のための業者委託について

### 岡崎オブザーバー

委託業者の募集はどのように行うのか。

### 回答（鈴木室長）

公募型プロポーザル方式で実施する予定である。専門的なノウハウを要する業務となることから、山形県内に事業所を要する旨の地域要件は設定しない内容で考えている。

### 回答（太田主事）

業務委託の内容は、①市場調査等、検討のための前提条件の整理、②活性化検討委員会への出席・助言、③荷重の確認、概算費用の算定を含む館内レイアウトの検討、④基本計画の骨子の策定の大きく4項目で検討している。

## (ク)基本構想の方向性について

### 大沼委員

基本構想の方向性について、①図書館機能の充実、②人が集う仕掛けづくり、③管理運営という柱が示されているが、検討項目としては漠然としており、内容については、個別に細かく考えていくのか。

### 回答（鈴木室長）

これから検討していくこととなる。

## (ケ)ターゲットとする利用者層等について

### 新藤委員

人が集うように幅広い利用者層をターゲットとすることについて、図書館法の大原則で老若男女、あらゆる階層に向けてサービスを行わなければならないが、図書館で何が主になっているかわからなくなり、結局、子どものコーナーも少しあり、医療情報のコーナーもあって、ビジネスコーナーもありで1つ1つの資料を集めるにしても少数になり、専門的なサービスができなくなってしまう。例えば、男女別で女性をターゲットにするとか、利用者層を想定して基本構想を考えていった方が、特色のある図書館になると思うがどうか。

### 回答（鈴木室長）

山形県立図書館としての特徴、他にない特色を出し、差別化を図ることは図書館の本来の機能としてはそのとおりだが、加えて多くの人に幅広く来ていただけることも可能になるのではないかと考えている。人が集うことについて、特定の世代をターゲットにすることも含め、基本構想を固める上で、意見をいただきながら検討していきたい。

### 尾形委員

幅広くあらゆる世代を対象とするか、ターゲットを絞るかではなく、もっと利用層、属性を明確に分けて検討しないと満足してもらえないサービスを組み立てることはできず、曖昧な議論になってしまう。

現在の利用者に高齢者が多い理由は、様々な人に向けて広く浅く蔵書をそろえていることに加えて、高齢者が日中に時間があることが大きい。図書館のコンセプトをどうするか、周辺の図書館とどう棲み分けするのが重要と考えている。

ビジネスパーソンが調査等で利用しやすい図書館となると日中の利用が増えると思われるが、一方で娯楽の要素が強まると仕事に利用しにくい場合もある。どういう曜日、どういう時間帯で、どういう利用者層が考えられるのかを整理して、広く県民の声を聞いた方が良いのではないか。そのような観点で事前に市場調査ができれば、これからの議論で検討しやすい。

個人的な考えだが、市町村の図書館は娯楽の要素が強くこのニーズをある程度満たしているのではないか。県立図書館はより専門性の高い書籍を増やすべき。どういう本があるのかネット検索ができるようになっているが、PR不足ではないか。県立図書館のフェイスブックも見てみたが、「いいね」の件数もまだまだ少なく周知が必要。お薦め本の情報をもっと出していく必要がある。視察結果から他の図書館を参考にするだけでなく、本質的なところを検討して山形県ならではのサービスを考えてほしい。司書がお薦

めする本のアマゾンのブックレビューが山形県立図書館のホームページで見られるようなサービスがあったら面白い。

首都圏の図書館のように調査研究ゾーンもほしい。Wi-Fi の公衆 LAN は接続しにくいので、有線 LAN がほしい。自分のパソコンを持ち込んで蔵書検索したり、仕事しながら専門書も見られたらいいなと思う。

駐車場については、非常に不便を感じる。無料か有料かだけでなく、立地に問題がある。雪国ならではとも言えるが、天候で図書館利用にも差が出ると思われる。図書館の移転ができないため、制約条件がある中で考えていく必要がある。

#### 回答（鈴木室長）

業務委託の中で市場調査も行う予定だが、調査が必要な項目についても意見をいただきたい。

昨年度、武雄市図書館を視察してきた。ほぼ1日通して滞在したが、夏休み期間中ということもあり、午前中は母親と子ども、昼休みはビジネスマンの姿が多く、夕方にかけて高校生が増えていった。時間帯で利用者層が全く違うという印象を受けた。

#### (コ) 検討の進め方について

##### 逸見委員長

①図書館機能の充実、②人が集う仕掛けづくり、③管理運営という柱について、項目別に掘り下げて検討していくのか。

#### 回答（鈴木室長）

最終的には基本計画としてまとめたいと考えているが、まずは第2回検討委員会で基本構想として大きな方向性は整理し、第3回検討委員会以降で具体化していきたい。

#### ③ 現地視察について

大場生涯学習施設主査が「現地視察予定図書館」（資料7）、「現地視察の行程（案）」（資料8）により説明。

- ・第2回現地視察については、一泊二日の行程で山梨県・東京都周辺の先進事例の視察を予定。日程は次回5月19日の遊学館の視察の際に決定させていただくこととする。

##### 新藤委員

現地集合、現地解散、個別での宿泊となるのか。

#### 回答（大場生涯学習施設主査）

そのとおりと考えている。

#### (3) その他

質疑特になし

#### 7 連絡（青柳室長補佐）

- ・今後の連絡や資料送付等のやり取りについては、電子メールを主とさせていただく。
- ・第2回～第5回活性化検討委員会の日程調整についても、メール等を用いておおよその開催時期を調整させていただく。出席の都合がつかない場合においても、検討事項について事前に意見を伺いたい。

・逸見委員長不在の場合については、山崎委員に委員長代理をお願いする。

## 8 閉 会